

# 平成 28 年度 野生動物救護実績について

自然環境保全センター（厚木市七沢）では、県民の皆様によって救護され、運び込まれた傷病鳥獣（主に人間の活動が原因で傷ついたり弱ったりしている野生の鳥類や哺乳類）を収容して治療し、野生に返す（放鳥、放獣）仕事を行っています。

平成 28 年度の野生動物救護の実績をお知らせします。

## 1 平成 28 年度の鳥類・哺乳類救護状況

区分	種類	数（頭、羽）	数の割合
鳥類	63	436	89.2%
哺乳類	8	53	10.8%
合計	71	489	100%

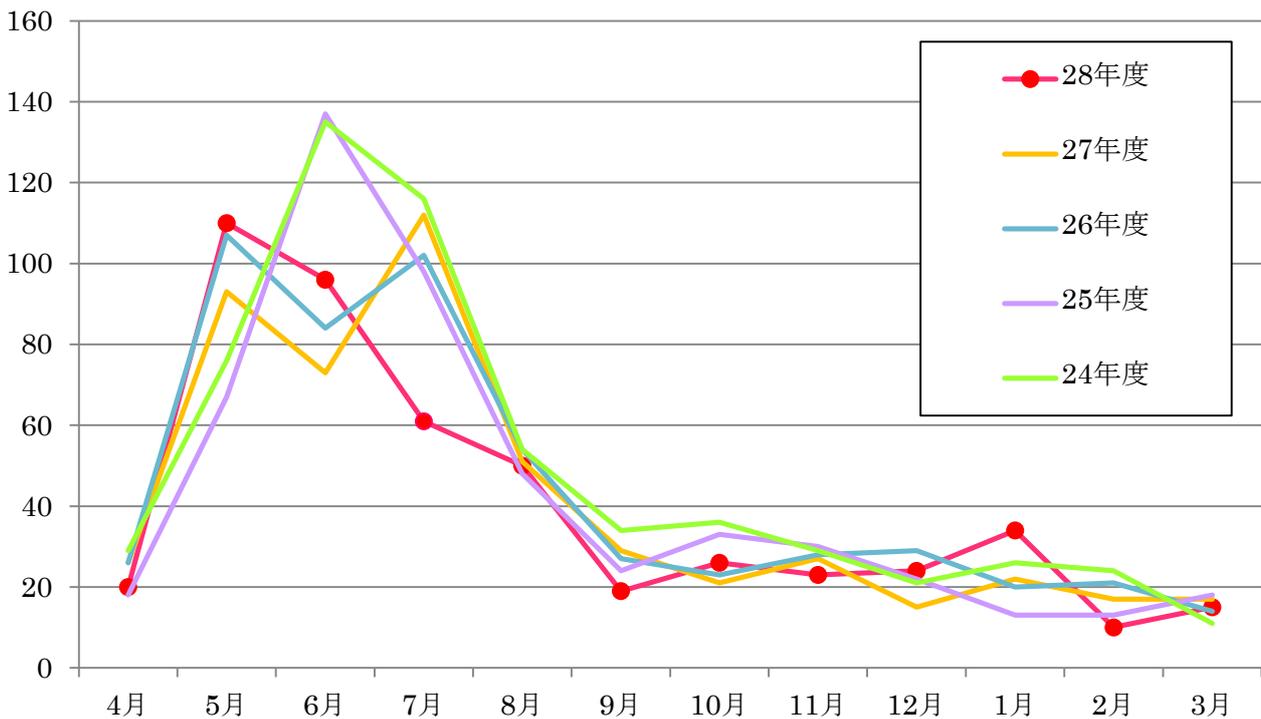
参考（過去 5 ヶ年の救護状況）

### (1) 年度別救護数

年度別	平成 28 年度		平成 27 年度		平成 26 年度		平成 25 年度		平成 24 年度	
鳥類	436	(35)	436	(23)	464	(32)	457	(22)	496	(29)
哺乳類	53	(5)	67	(4)	71	(3)	64	(1)	95	(7)
計	489	(40)	503	(27)	535	(35)	521	(23)	591	(36)

\*（ ）はへい死体で持ち込まれたもので、内数

### (2) 月別救護点数



(3) 救護数上位 10 種

年度別 順位	平成28年度		平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度	
	種名	点数	種名	点数	種名	点数	種名	点数	種名	点数
1	スズメ	81	ツバメ	84	ツバメ	91	ツバメ	101	ツバメ	89
2	ツバメ	63	スズメ	70	スズメ	81	スズメ	76	スズメ	59
3	ムクドリ	45	キジバト	45	タヌキ	38	キジバト	43	キジバト	40
4	タヌキ	30	タヌキ	45	ヒヨドリ	37	ヒヨドリ	35	ヒヨドリ	39
5	ヒヨドリ	28	ムクドリ	30	キジバト	33	タヌキ	33	メジロ	38
6	キジバト	27	ヒヨドリ	25	ムクドリ	32	ムクドリ	23	ムクドリ	28
7	シジュウカラ	20	シジュウカラ	24	メジロ	22	シジュウカラ	21	タヌキ	28
8	カルガモ	19	メジロ	17	シジュウカラ	21	カルガモ	16	ゴイサギ	25
9	ハクセキレイ	16	ハクセキレイ	16	ハクセキレイ	19	アブラコウモリ	15	シジュウカラ	23
10	メジロ	16	アオバト	14	アブラコウモリ	18	ハクセキレイ	11	アブラコウモリ	23

(4) 放野率・死亡率 (%)

	平成 28 年度			平成 27 年度			平成 26 年度			平成 25 年度			平成 24 年度		
	放野	死亡	その他	放野	死亡	その他	放野	死亡	その他	放野	死亡	その他	放野	死亡	その他
鳥 類	37.7	54.1	8.2	32.9	55.9	11.2	28.7	61.3	10.0	27.4	70.6	2.0	29.1	64.0	6.9
哺乳類	34.1	47.7	18.2	38.1	38.1	23.8	60.3	30.9	8.8	50.8	47.6	1.6	24.2	65.3	10.5
全 体	36.7	53.2	10.0	31.8	55.7	12.5	33.0	57.2	9.8	30.3	67.5	2.2	31.9	67.5	0.6

\* 各年度の 3 月 31 日時点 (へい死体除く)

\* その他は治療中・終生飼養・長期飼養に移管したものを含む。

\* 平成 28 年度は鳥インフルエンザの影響で鳥類の受け入れを休止しているため、例年より鳥類の救護件数が変動しています。

〔 鳥類の受け入れ休止期間：横浜市立及び川崎市立動物園：2016 年 12 月～  
保全センター：2017 年 2 月 8 日～3 月 22 日 〕

平成 28 年度の特徴

(鳥 類)

- ・スズメ、ツバメ、ムクドリ、カルガモなど人間の近くで繁殖・生活している種類が上位を占めています。
- ・珍しい例としては強風の影響でシロエリオオハムが平成 28 年 12 月～平成 29 年 1 月に計 2 羽保護されました。
- ・ヨタカ、コミミズクなどが渡りの途中の衝突事故などで保護されました。



ヨタカ

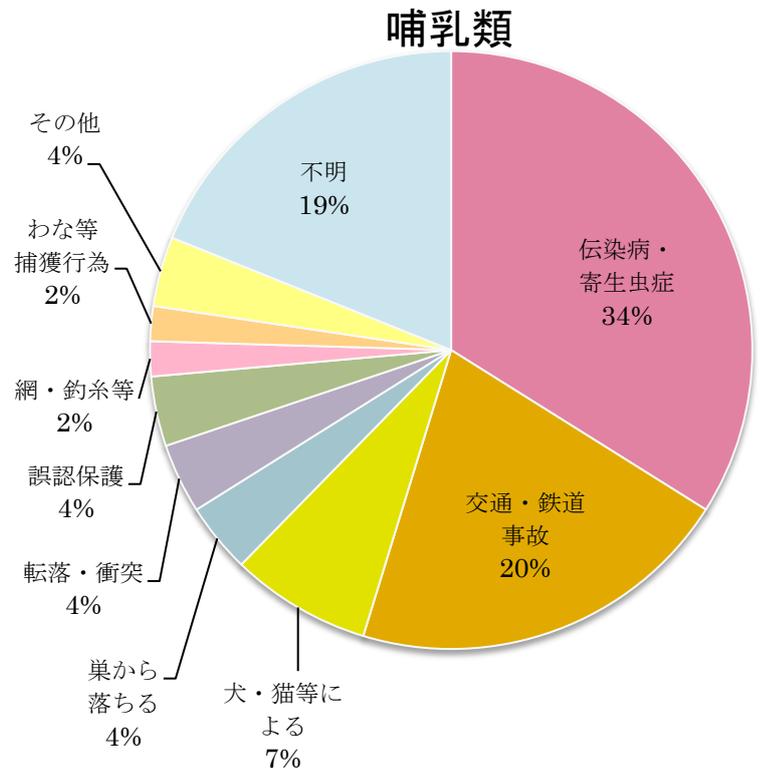
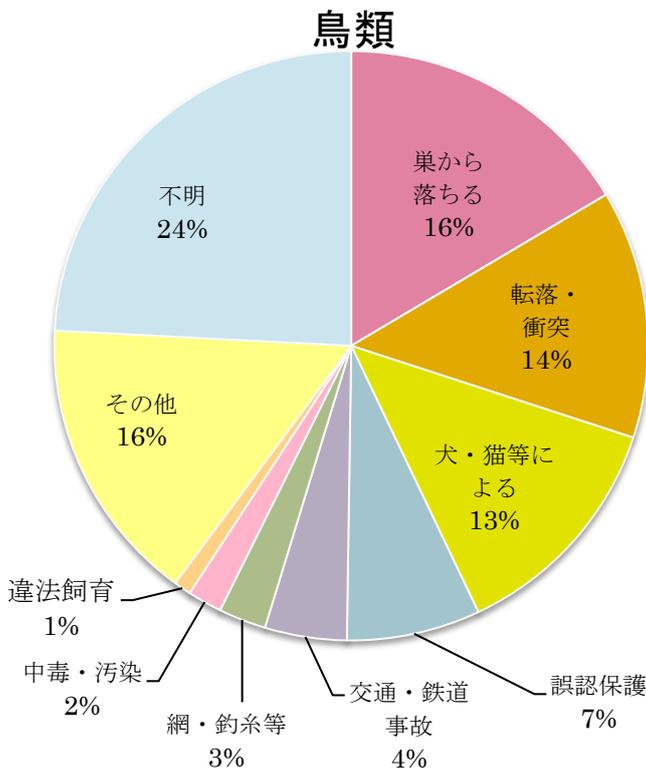


コミミズク

(哺乳類)

- ・保護された哺乳類の中でも交通事故・わな等捕獲行為による原因が多くなっており、治療日数が増加傾向にあるため、保護日から放獣日までの時間がかかる傾向がうかがえます。

参考 (平成 28 年度の保護原因)



## 2 ボランティアの活動

- ・当センターには野生動物の飼養や治療・リハビリの補助、環境教育や普及啓発活動等を行っている多くの野生動物救護ボランティアの方々がいらっしゃいます。
- ・野生動物救護ボランティアには一般ボランティア（注1）、短期飼養ボランティア（注2）および長期飼養ボランティア（注3）があります。平成28年度の一般ボランティアの活動人数は年間延べ1,132人で、毎年多くの方々にご参加いただいております。また、短期・長期飼養ボランティアに飼養を新たに依頼した野生動物の数は2件になります。

### 注1 一般ボランティア

当センターに保護されている鳥獣のお世話や救護された動物のデータ解析、学校等へ出向いての環境教育、傷病舎特別公開などの普及啓発活動を行っていただいております。

### 注2 短期飼養ボランティア

毎年5月から8月くらいまでの間、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリなど主に巣立ち前の野鳥のヒナ等のお世話やすぐに放鳥・放獣できない動物のリハビリ訓練などを行っていただいております。

### 注3 長期飼養ボランティア

翼が折れているなどの理由により野生に返せない鳥獣を、生涯にわたり飼養を行っていただいております。

## 参考（過去5年間のボランティア活動状況）

### (1) ボランティア登録状況

年度別	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度
ボランティア登録数	259	245	256	245	193

\*：ボランティア登録数は、各年度の3月31日現在

### (2) 一般ボランティアの年度別活動状況

(延べ人数)

年度別	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度
活動延べ人数	1,132	904	1,036	1,083	1,364

### (3) ボランティアへの飼養依頼

年度別		平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度
鳥類	短期	0	19	17	7	12
	長期	0	9	6	3	7
哺乳類	短期	1	0	2	3	1
	長期	1	1	0	1	1
合計	短期	1	19	19	10	13
	長期	1	10	6	4	8
総計		2	29	25	14	21

\*各年度新たに依頼した分のみ掲載